

熊本のコーヒー文化発信

地域の宝と地場産業の取り組み

～天草陶磁器と珈琲のコラボレーションの発展性について～

九州南支部副支部長 佐野俊郎

熊本在住の九州南支部副支部長として熊本県内のコーヒー文化の状況についてご報告いたします。
熊本 天草に産出する世界的な陶磁器原料の天草陶石。その陶石を砕きその粉を練り合わせ焼いた磁器は濁りのない白色で高い硬度を持つのが特徴です。

こうした高品位の陶石の発見は、17世紀中頃とされています。江戸期を代表する才人 平賀源内による著書『陶器工夫書』において、その冒頭から「陶器土、右之土天下無双の上品に御座候。」と陶器土絶賛の言葉で始まります。これは建白書として1771年(明和8年)、時の天草郡代に提出されております。ここでいう「陶器土」は天草陶石を指しており、氏は「天下無双の上品」と絶賛しております。氏は、その「天下無双の上品」を使って、職人を仕込み、外国から輸入された陶器を手本に工夫を重ね外国に負けない良質の陶磁器を作れば、高額な外国陶磁器を買うこともなく、むしろ「唐人阿蘭陀人」等がこれを買って、それが「永代の御国益」になると明言します。

このような優れた陶石が産出する天草では、近年の発掘調査の結果、1650年頃に内田皿山の磁器が焼かれていた事が判明しております。延宝年間(1673年～1681年)以降は、1762年(宝暦12年)に高浜焼が焼かれ、後にそれらの製品が海外に輸出されるようになりました。1765年(明和2年)に天草郡本戸村水の平(現天草市)で水の平焼が創業を開始し、1807年(文化4年)には瀬戸磁器の始祖 加藤民吉が天草での修行を基に瀬戸磁器を創業します。

もともと天草は、天領であったため藩窯的なものはありませんでした。各村の庄屋たちの主動のもとでの村民の自活のための磁器や陶器づくりが根本にありました。そのため長い間、他の産地のように「ブランド」として表舞台に出る機会がなかったのです。

時代は流れて、平成12年(2000年)に開催された第13回県民文化祭「ミレニアム天草」での国際シンポジウムにおいて「陶石の島から陶磁器の島へ」と題した決意文が採択され、天草市は、平成13年度(2001年)からの3年間、「まちづくり事業」を実施しました。平成15年(2003年)、天草陶磁器は日本の伝統的工芸品の認定を受け、その当時は天草市内の窯元は13軒程でしたが、令和2年(2020年)現在30軒程に増え、各窯元で個性的で多様・多彩な陶磁器が焼かれています。また自主的な展示会を開催するなど、国内はもとより世界進出を目指した新しいブランド化への取り組みを行なっています。天草市は平成16年(2004年)から、毎年11月に「天草大陶磁器展」を開催しています。この陶磁器展は天草中の窯元はもちろん日本全国から約110の窯元が集まる今や県下最大級の陶磁器展となり賑わいをみせています。

この天草陶磁器展と珈琲のつながりに関しては、平成27年(2015年)天草陶磁器の島づくり協議会会長である金澤一弘氏の「天草大陶磁器展は今後5年間、珈琲(カップ)をテーマに実施する」との宣言により始まりました。

日本コーヒー文化学会関連の動きとしては、この天草大陶磁器展内イベントとして同学会九州南支部(飯田敏博支部長)主催で、平成27年(2015年)10月、平成28年(2016年)11月に「天草でコーヒーを楽しむ会」を2年連続で開催しております。廣瀬幸雄会長や、井谷善恵副会長、会員の小坂章子氏(フリーライター／『九州喫茶散歩』著者)にも天草にご来島頂き、ご講演頂きました。

天草大陶磁器展、今年のテーマはコーヒー。

日本コーヒー文化学会より九州南支部のコーヒーを楽しむ会を、天草で開催しませんかというお話をいただいた。昨年の陶芸の招聘作家であり、今年の陶磁器コンテストの審査員でもある金憲晴(キム・ホノ)氏が人生の導としている人が、大坊珈琲店の大坊勝次氏だという話をした前後のことだった。天草はコーヒーカップを作る技術があり、世界有数の陶石も産する場所だ。焙煎を自分で行う若い人たちも増えている。こだわり抜いたコーヒーが天草の時間をより豊かにしていくのではないかと。コーヒーを語り、コーヒーを飲み、コーヒーの映画を観る。コーヒーカップを選びながら、ゆったり時を過ごす。永遠のような一時が出来上がればと考えている。

天草で
コーヒーと
器と
映画を
楽しむ会

10/31

一杯のコーヒーからどれ程の物語が生まれたのでしょう
一杯のコーヒー豆はどれ程の記憶を蓄えているのでしょう
果てしない数のストーリーがコーヒーから始まり紡がれる
その物語を深く掘り下げ集うことで、更に喜びを感じ
また一杯のコーヒーに至福の時をかさねる

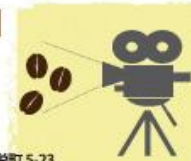
日本コーヒー文化学会(1994年に設立)はコーヒーを愛する人々が会し多様な活動を続けている学会です。今日の日本コーヒー文化学会 in 天草でのコーヒー・ストーリー。そして、天草陶磁器にまつわるストーリー。天草の土壌で二つの文脈が出会い、絶妙に融合(ブレンド)しながら、やがて大きな樹へとなることを願います。

コーヒーを楽しむ会

- 時間 13:30~16:30(開場 13:00)
- 会場 天草市民センター 大会議室
- 主催者挨拶 飯田敏博(日本コーヒー文化学会九州南支部長、鹿児島国文学教授)
- 講演1「これからのコーヒー」 廣瀬幸雄(日本コーヒー文化学会副会長・金沢大学名誉教授)
- コーヒーブレイク コレジオの仲間による音楽演奏
- 講演2「天草の土が育んだ日本のコーヒーカップ」 井谷善恵(東京藝術大学特任教授)

映画を楽しむ会

- 上映時間 17:30~
「A Film about coffee」 11:00 / 20:40 / 22:00
※国内上映の作品のため10月31日のみの上映となります。
「コーヒーをめぐる冒険」 18:50
※11月1日(日)~4日(金)まで上映10:45 / 19:00(平日のみ)
- 会場 本渡第一映画館 熊本県天草市栄町5-23
- 前売りチケット 2500円【陶磁器の島 天草】からのお土産付
お土産の引渡し場所 ①10月31日13:00~16:30 講演会場
②それ以降 陶磁器展会場受付
※引き換えは11月4日午後5時までとさせていただきます。
※当日券は、講演会/映画 各1500円(お土産は付きません)
※丸尾館で開催の大坊産物は別途料金となります。及ページをご覧ください。
- 定員 200名(※定員になり次第締切ります※来観学のお子様はご遠慮ください)



主催：日本コーヒー文化学会(JCS)九州南支部・天草大陶磁器展実行委員会/協力：まる味屋珈琲店 阿田珈琲 銀羊・舎 まどカフェ お茶の畑野園
お問合せ先：「天草でコーヒーを楽しむ会事務局」丸尾館 熊本県天草市北原町3-10 TEL 0969-23-9522 FAX 0969-23-9593
チケットのお求め先：【熊本市】まる味屋珈琲店(ワシントン通り096-356-3377)/阿田珈琲本店(上通り096-356-2755)
銀羊・舎(保田産096-201-4270)/まどカフェ(上通り096-355-7777)/お茶の畑野園 茶以香(上通り096-355-1100)
【天草市】丸尾館(北原町0969-23-9522)/珈琲茶話(古川町0969-23-4747)/私産豆(南町0969-22-1592)
FLAT TRACK(中央新町0969-22-6422)/本渡第一映画館(栄町0969-23-1417)※お電話でのお申込は丸尾館まで

天草で初の日本コーヒー文化学会イベント



天草でコーヒーを楽しむ会の様子

また平成 27 年(2015 年)から令和元年(2019 年)にかけて「大坊珈琲の時間」というタイトルで同学会員の大坊勝次氏をお招きし、大坊珈琲店のメニューを復刻した珈琲をお楽しみ頂き、氏と語らうイベントを実施して毎年来場者の好評を博しました。このイベントは今後も継続が決定しております。

私も、陶磁器展メイン会場でのお好みの器で楽しむカフェ(2019 年期間 5 日間の珈琲売上杯数 3002 杯)の一日店長や、「天草でコーヒーを楽しむ会」での講師をするなど、協力参加しております。

天草大陶磁器展



大坊勝次氏

**「大坊珈琲の時間」を
愉しむ in 丸尾焼**

大坊勝次さんが丹精込めて淹れる珈琲と、大坊さんと陶芸家の金憲鎮(キム・ホノ)さんのお話を、ともに楽しみましょう。終了後、サイン会も行います。

金憲鎮氏

一杯 700円 (各回20名)事前申し込みが必要です。

10/31 日

①10:00~11:45
大坊珈琲を味わう
大坊勝次×金憲鎮
コーディネーター：金澤一弘

11/1 日

大坊珈琲を味わう
コーディネーター：吉永正敬

②14:00~ ③15:00~
④16:00~

※各回20名の珈琲を準備しております。数に限りがございますので、お早めにお申し込みください。
お申し込み・お問い合わせは丸尾焼まで。TEL.0969-23-9522 (9:00-18:00)
※見学のみは無料です。大坊さんが淹れる珈琲を飲む場合は事前申し込みが必要です。

**天草大陶磁器展
コーヒーショップ
一日店長就任**

10/31 日 **佐野俊郎氏**
10:00~16:00 日本コーヒー文化学会会員

天草市民センター会場にて



■ 熊本生涯学習プラザ
コーヒー紅茶セミナー講師
■ RKKテレビ「ウェルカム!」に
ゲストコメンテーターとして出演
■ RKKラジオ「熊本珈琲店」出演

様々なコーヒー関連イベント

こうした流れにより、地域の宝としての天草陶磁器と珈琲のコラボレーションが活性化してまいりました。天草陶磁器のブランディングのもうひとつの柱として、天草陶磁振興協議会(参加 7 窯元 事務局 木山陶石鋳業所内)の活動があり、2017 年から「天草珈琲の器(アマクサコーヒーノキ)プロジェクトが進められています。このプロジェクトは、高品質のカップ&ソーサーを研究、制作することを目的とし、取り組みを始めて 3 年目にあたる本年(2020 年)、天草七つの窯元からなる新たな陶磁器ブランド「珈琲の器 Amacusa」が誕生しました。コーヒーノキをモチーフとしたロゴマークは、天草陶磁器として確かな品質の証として作成されました。

私はアドバイザーとして参加し、世界の名窯の紹介・説明や珈琲専門店への商品需要開拓の助言協力を行っております。



珈琲の器 Amacusa のブランドロゴマーク

陶磁器ブランドの誕生に伴い、地元天草で珈琲焙煎事業を展開している「赤い月珈琲」(同学会員:吉永正敬氏)の協力のもと、「珈琲の器 Amacusa」に合う珈琲のオリジナルブレンドづくりを行いました。

そして今回、「珈琲の器 Amacusa」の上質なコーヒーカップをイメージしたオリジナルブレンドが完成いたしました。

「SHIRO ブレンド」～白磁ブレンド～

石もの(白磁)のカップで飲みたいマイルドブレンド
上品でさわやかな口あたりは繊細な器にぴったり
グアテマラ/エチオピア/コロンビア

「KURO ブレンド」～陶器ブレンド～

土もの(陶器)のカップで飲みたいストロングブレンド
コクとキレの絶妙なバランス
グアテマラ/ブラジル/インドネシア



商品イメージ

珈琲豆 or 珈琲粉

ドリップパック

同振興協議会主催事業である「国の伝統的工芸品指定 天草陶磁器展 熊本展」では実際の器で珈琲を楽しめるカフェコーナーもあり、お客さまの好みのデザインのカップ&ソーサーを選んでいただき、実際の口触り等お試され好評でした。(2019年実施)※2020年は新型コロナウイルスの拡大防止により紙コップでの提供



展示会の様子

天草の、地域の宝(天草陶石)と二つの地場産業(7 窯元と赤い月珈琲)のコラボレートで生まれた「器と珈琲」。

今後はこの「器と珈琲」をキーワードにしたイベントを熊本県内はもちろん全国そして世界に展開することを計画しております。

世界に誇る天草陶石を使って天下無双の作品を作り世界に発信していく事を夢みながら、、、

今後の活動予定

AからA(天草と阿蘇の交流)……準備中

南阿蘇地区の道の駅などで天草陶磁器(以下、AC)及び珈琲展

展示会場で珈琲サービス

展示エリアのコーヒー店においてACカップ&ソーサーを使用してもらう。

コーヒー栽培家と協力し、栽培ハウス・展示場・コーヒー店の「珈琲回遊ロード」の提供など。

東京にて……計画中

県関係施設(熊本銀座館)などでAC展示および珈琲サービス

各コーヒー店や飲食店と協力し展示期間中ACを使用してもらう

京都にて……計画中

ACおよび珈琲展

ACを使った珈琲講座 定期開催